

令和5年度 宮島学園第2回学校運営協議会

令和5年10月18日(水)14:35～15:30

宮島学園会議室

(参加委員) 岡田 好江 菊地 寛 木村 泰造 内山 健 白水 浩
山本 卓士 (欠席3名)
(学 校) 林 健一郎 橋本 浩敬

1 開会 会長挨拶

学校に対して協力できることは進めていきたいので委員のみなさんも協力してほしい。

学校長挨拶

子どもたちは気持ちよい表情で登校できている。来月文化発表会を計画している。先月ふれあいコンサートを行ったが、地域の方が20名くらい来ていただいた。よいことだし、学校の存在意義を感じている。地域の方からご意見をいただきながら宮島学園の取組の改善を行ったり新たな取組も進めたりしていきたいと考えているので、今日も意見をいただき今後の準備をしていきたいと考えている。

2 議事 司会(岡田)

○ 令和5年度学校評価 中間報告について

意見・質疑

(委員)授業参観をして、子どもたちがパソコン入力を上手にしているのに驚いた。数年前から授業で行っているが、はじめは大人の方がスムーズに入力できていたが、今では子どもの方がよくできるようになっている。パソコンの持ち帰りもしているので、より身近になっている。

(委員)小中一貫教育の良さを最大限に生かす学校運営については、満足度が高いからうまくいっているように思う。一部中期だけが評価が低い部分があるがこれはどうか。

(学校)小中一貫教育を進めているが、本校は小規模で和気あいあいと中学生が小学生に関わる、小学生が中学生にお世話になることなどを進めていたが、近年は中学生から新しく入学してくる生徒が増えているため、そこが難しくなってきた。中学生同士の新しい人間関係を形成することも必要になるため、これまで通りのことができるか不安なところがある。これまでと異なる小中一貫教育を考えていかなくてはいけなくなるのではないかと考えている。中学生から人数が増えたことで、道具が不足したり教室が狭くなったりすることを考えなくてはいけなくなっている。

(委員)これまで常に14～15人で学級の子どもの数が推移していたのが、今年度の1年生は全体の3分の1の生徒が中学校から入学してきた。どういう経緯か。

(学校)毎年市教育委員会で5人程度は外部からの入学の募集をかけており、2～3人は入学していた。今年度は小規模校である本校の人气が高くなり、今回のような状況になったと思う。

- (委員)現在の7年生の状況も良いと思う。これまで積み上げてきたものを継承しつつ、新たな人間関係を形成でき、多くの経験ができると思う。
- (学校)今年度は7年生がそのような状況になったので、担当教員は昨年度まで以上に業務が多くなっているのは事実である。
- (委員)非常勤職員や外部のサポートがあるのではないかな。
- (学校)それがあっても担当教員の業務は増えている。
- (委員)中規模校だと1学級当たり何人になるか。
- (学校)定数は1学級35人になるが、中規模校くらいだと1学級30人程度である。だが、本校の教室の大きさはすべて20人を想定して作られている。教室内のロッカーや靴箱も20人程度を想定して作られている。近年、前年度より1学級の子どもが増加していつているので、ロッカーや靴箱を少しずつ増やしながらか対応している。
- (委員)1学級20人を想定しているのだが、今年度の7年生だけが20人を超えてしまっている。この人たちは宮島学園をわざわざ選択してきているので、受け入れていきたいと思う。最近島外から通ってきている子どもが増えているが、これも色々な人との出会いなので、教員も多様性を受け入れながら指導していく必要があると思う。一生懸命やっていただきたい。
- (学校)教員の働き方改革の目標の1つに、「教員が子どもと向き合う時間の確保」というものがある。子どもと向き合う時間を確保しながら、時間外労働時間を削減していくこととなる。そうすると、これまで地域の活動に教員が参加する時間というものにも制限がかかるようになる。このような現状を地域の方にもご理解いただきたいと考えている。宮島は特別な地域だから、そこにある学校で働く教員はそうも言っておれないという葛藤を持ちながらか勤務している状況である。
- (委員)宮島は特別な地域で、島の行事に子どもが出場することが多くあるので、そこに教員に関わってもらうことは子どもにとって大切なことだと思う。だから、宮島学園に勤務することがわかった段階で、そういうことも含めて働くことを考えていつてほしい。
- (学校)この2～3年はコロナ禍でこれまで行っていた行事が中止になったり縮小されたりしてきた。本校の教員もこの2～3年で多くが異動となり、コロナ禍前の行事の様子を経験したことがある教員が数人になっている。
- (委員)我々も今年度コロナ禍があけて行事が多くなったと感じることがある。
- (学校)これまでやっていた行事の内容を知っている教員であれば、すぐに対応できると思うが、現在知っている教員が少ないため、知ること、調べることから始めなければならない。
- (委員)コロナ前と同じようにしなければいけないと思うと労力が増えると思う。しかし、行事の内容を組み直そうかと考えても、そこにも労力が増えて難しいところがあると思う。
- (学校)これからは、子どもが参加する行事も含めて学校の関わり方、教員のスケジュールを考えていかなければいけない。
- (委員)宮島学園として参加する行事を決めることができるとよい。宮島の行事だからといつても何でもかんでも子どもを出すというのは考えないといけな。取捨選択は学園がしていくことになるが、学校の事情を明確にして断る理由にしても良いと思う。
- (委員)PTAとして考えないといけなのは、学園の子どもの数は増えていつているが、宮島の保

護者の数は変わらない。そして、宮島の行事を手伝ってくださる方は宮島在住の方が多くなり、島外在住の方はどうしても足が遠ざかってしまう。となると、行事に係る保護者一人当たりの負担が大きくなってきている。だから、今後どうしようか考えている。

(学 校) 学校行事にしても同じである。

(委 員) 教員も保護者も同じなので、行事を考える際には、どうすれば負担が軽減できるかを考えて決めていく必要がある。

(学 校) 7月のたのも船づくりのときは、事前に保護者への手伝いを募っていたので、数人手伝いに来ていただいた。10月の氏神祭のときには、神輿の担ぎ手を島外の人にも門戸を広げてくれたので、参加者が増えた。今後も保護者に早く周知して、少しずつ参加者を増やしていくことで、この時期にはこの行事があるという認識を増やすことにつながると思う。

(委 員) 学校とPTAから保護者に案内をしてもらうことで参加者を増やしていけたらよい。

(委 員) ブロック目標のところで、「教職員の見取りにずれがあり」という文言がある。どういったずれがあったのか教えていただきたい。また、宮島学園で働いてよかったと感じる教職員の割合が高いが、どういう部分で良かったと感じているかを教えてほしい。

(学 校) 教職員が求めているレベルと、学園生がとらえているレベルに差があるため、学園生は達成できていると思っているが教職員ができていないと思っているところにずれがあるということである。教職員が求めているレベルを学園生に説明して理解したうえで評価をさせると結果が変わっていたと思う。言語化して見えるようにしていく必要があるので、改善している。働いてよかったと感じる教職員については、肯定的評価は「当てはまる」「やや当てはまる」の2つを合わせて集計しており、今回はほとんどの教員が「やや当てはまる」を回答していた。どこが良かったかを詳しく聞いていない。宮島で働くとわかったときに事前の情報や期待をもっていたことが、働いてみて思っていた通りと感じている教職員が多いということだと思う。

(委 員) 学校内で行う餅つきや三味線の行事のときに、先生方がこういう宮島独自の行事に参加できるのは良いと思ってくれていると思うが、当日の動きで、子どもたちが歌ったり活動したりしているときに、先生がストーブに当たって談笑している様子を見たことがある。子ども中心の行事ではあるが、先生も子どもと一緒に「入る」という意識を持ってほしいと感じた。こういう活動は、宮島学園に勤務しているときしか経験できないことなので、意識をしてほしい。夏の宮島踊りの夕べに複数の先生方に来ていただいたのを見て嬉しく思った。学校以外の行事に子どもが参加している様子を先生方が見てそれを評価してくれたら、子どもたちの自信につながるし、その経験が中学校を卒業して島外での生活になったときに大きく関わるのだと思う。

(委 員) 行事のときに、参加した大人と教職員がコミュニケーションをとることは大切だと思う。

(学 校) 学校内で行う行事のときに、教職員の動きを事前に説明していなかったのもそういう申し訳ないことになった。今後は、事前にしっかり説明して関わるようにさせたい。

(委 員) 学校の先生と保護者が顔を合わせてコミュニケーションを取ることが少なくなっているの
で、増やしていけたらよい。

(委 員) あいさつについて、評価が 89.9%となっているが、子どもの様子を見たら 100%でも良い

のではないかと思います。一方で、苦言にはなるがうち（事務所）に案内を持ってきていただいた。どなたか分からないのだが、持ってきたときあいさつがなかった。これはどうなのかと思った。子どもに挨拶をするよう指導しているのであれば、教職員にも挨拶をさせてほしい。

(学 校)子どもの評価を100%で良いと言っていたが、「学園生に挨拶をするが返答がない。」という意見をいただいている。その子の名前を呼んで挨拶をすると返答してくれるのだが、それなしに挨拶をすると自分に言われているのか分からないから返答しないということもあるのだと思う。今後指導を継続していきたい。

(委 員)島内は観光客が多いから、今はわざとこちらから子どもに声をかけないようにしている。子どもにとってこの人は安全かそうでないか判断できないので、不審者と間違われたらいけないと思っている。島内では難しいところがあると思う。

(委 員)今日校内を回ったら、「こんにちは」と言ってくれたので子どもたちは挨拶はしてくれると思う。

3 その他

- ・次回について
- ・議事の公開について
- ・この後行う「熟議」について

